

■ 我が大学が誇る施設 第14回

～薬科大学・薬学部の特徴ある施設紹介～



城西大学薬学部 「薬用植物園」

城西大学薬学部 生薬学研究室 教授 白瀧 義明



写真1 薬用植物園全景

私たちは、医薬品というときれいに梱包されたカプセルや錠剤などを連想しますが、人類の歴史を振り返ってみますと、それらは薬用植物を起源とし、薬用植物から得られた物質をヒントに開発されたものが数多くあります。また、漢方医学では天然自然に存在する動植物をそのまま、又は簡単に加工して使用しています。従って、薬用植物は近代医学の発達した今日においても医学薬学領域の中で大変重要です。また、薬用植物には、観賞用として見るだけで愉快的気分になるものも多く、普段何気なく見ている植物が薬用としても使用できることなどを知ると楽しくなります。城西大学坂戸キャンパスには大学創設以前から生い茂る「里山の木々」を大学最西端に残し、約800種の植物種を有する新たな薬用植物園(写真1)が開園致しました。今後は武蔵野に育まれた草木をさらに充実し、在学生・教職員はもとより、卒業生や地域の皆様にも開放し、「憩いの空間」として利用していただきたいと思っております。

◎沿革

本学薬用植物園は今から43年前、薬学部創設(1973年)と同時に当時の文部省の大学設置基準にのっとり、『薬学教育の基礎として学生に供覧すると共に、研究材料の栽培ならびに特に重要な薬用植物の試験栽培及び保存、地域社会の教育活動への協力』を設立趣旨として設置されました。その後、温室を設

置し、さらに圃場の増設をしながら整備を図り、植物種は約800種を数えるほどになりました。この度、本学創立50周年を記念した新薬学棟の建設に伴い、場所を大学近郊東側の下川原に移し、低屋温室、高屋温室の2つの温室、並びに新管理棟の建設を行い、2つの圃場を含め、総面積は約6,000m²となりました。

本学薬用植物園は埼玉県西部に位置し、『風光明媚な高麗川の流れのほとり』というとても恵まれた自然環境にあります。標本区には漢方薬、民間薬などの原植物が栽培され、我が国に自生するイカリソウ、オウレンやトリカブトなどの薬用種を、なるべく、自然植生に近い状態に保ちながらの栽培を試みています。2棟の温室にはアカキナノキやケイ(シナモン)をはじめとする熱帯の重要な薬用植物やバナナ、コショウ、カカオ、アロエ、ミラクルフルーツ、バンジロウ(グアバ)、パイア、マンゴー、バニラ、また、バオバブノキ、キソウテンガイなどの非常に珍しい植物も見ることができます。

教育、研究面では、公益社団法人日本植物園協会に加盟し、全国の薬用植物園と共にムラサキ、シャクヤク、コガネバナの栽培研究を行いました。現在、行っているマメ科クララ属植物の研究では、基原植物の同定を行うため日本各地や中国のクララを栽培し、数多くの研究論文を出しています(写真2、3)。また、ナス科トウガラシ属植物の研究では、辛くないトウガラシの機能性を追求するため



写真2 クララ *Sophora flavescens*
(マメ科 Leguminosae)



写真3 Texas mountain laurel *Sophora secundiflora* (マメ科 Leguminosae)



写真4 ステゴビル *Caloscordum inutile*
(ユリ科 Liliaceae)



写真5 オタネニンジン *Panax ginseng*
(ウコギ科 Araliaceae)

研究材料の提供等を行なっています。最近では絶滅危惧植物であり、埼玉県では坂戸市入西（白花）と秩父（淡紫色花）の2ヶ所しか確認されていないという埼玉県指定の天然記念物でもあるステゴビル（ユリ科）（写真4）の保存栽培を行っています。本植物は「坂戸文化かるた」にも「ステゴビルやしるの杜に白い花」と詠われ、めったに見ることができない貴重な植物です。本学薬用植物園はとても恵まれた自然環境にありますので、今後は、社会活動を一層、盛んにし、多くの人々に自然環境や植物に関心を持ってもらうよう、講演会の開催、学内や高麗川遊歩道での植物観察会などを行い、地域文化の発展に寄与したいものと考えています（写真5）。

◎温室・管理棟

低屋温室（写真6）114m²、高屋温室（写真7）85m²の2つの温室、並びに標本室、資料室、加工調製室などを備えた2階建ての新管理棟（建築面積95m²、延床面積188m²）が建設され、アカキナノキやケイ（シナモン）をはじめとする熱帯の重要な薬用植物やバナナ、コショウ、カカオ、アロエ、ミラクルフルーツ、バンジロウ（グアバ）、パパイヤ、マンゴー、バニラ、また、バオバブノキ、キソウテンガイなどの非常に珍しい植物を見ることができます。管理棟（写真8）では、標本室、資料室、加工調製室（写真9）などがあり、生薬の加工調製や、生薬や錯葉標本の保存、種々の資料の閲覧等が可能となりました。



写真6 低屋温室内部



写真7 高屋温室内部



写真8 管理棟



写真9 加工調製室（管理棟1階）

◎圃場

高麗川のほとりから、徒歩約5分程度、離れたところに第1圃場(1,600m²)、第2圃場(1,200m²)があり、研究用の植物や貴重な植物の系統保存のために使用されています。

◎公開講座と観察会

漢方薬・生薬認定薬剤師の認定条件に薬用植物園実習を受講する必要がありますが、その研修に協力しています。本学薬用植物園は無料で一般公開を行っています。また、この度、本学は創立50周年を記念し、武蔵野の自然を残す緑いっぱいのキャンパス全体を「Botanic Garden JOSAI」と名付けることに致しました。すでに開園し、多くの種類のバラが植えられている「ローズガーデン」と共に、学生諸君だけでなく、一般の方々も、是

非、この素晴らしい環境にある新薬用植物園を訪問していただきますよう願っています。

◎「薬用植物園」利用案内

■開園時間：月曜日～土曜日：午前9時30分～午後4時（ただし、11月～3月の間、温室は午後3時まで）“日曜・祝日、大学の休暇期間（8月中旬、年末年始、創立記念日4月20日）、入学試験日は閉園”

■見学方法：見学希望の場合は次のように手続きする。

大学正門にある守衛室で薬草園見学の旨を申し出る。本学学生、教職員以外の方、団体でのご利用は総務課にあらかじめお尋ねください。

■詳細は、薬用植物園ホームページをご覧ください。

【URL】<http://www.josai.ac.jp/>